もくじ

「三十四節気・七十二候」歳時記カレンダー 七十二候を知る 006

季節の気配と旬 010

春

春を彩る「桜梅桃李」 012

立春 014
第一候 東風凍を解く 015
第二候 うぐいす鳴く 016
第三候 魚氷にあがる 017

雨水 018
第四候 土が潤い起る 019
第五候 霞始めてたなびく 020
第六候 草木萌え動く 021

啓蟄 022
第七候 巣籠りの虫戸を開く 023

春分 026
第八候 桃始めて咲く 024
第九候 菜虫蝶と化す 025
第十候 雀始めて巣くう 027
第十一候 桜始めて開く 028
第十二候 雷声を出す 029

清明 030
第十三候 つばめ来る 031
第十四候 雁北へ帰る 032
第十五候 虹始めて見る 033

穀雨 034
第十六候 葭始めて生ず 035
第十七候 霜止み苗出ず 036
第十八候 牡丹花咲く 037

春の花 名所全国ガイド 038

夏

夏の虫たちが集う四大樹木 040

立夏 042
第十九候 蛙始めて鳴く 043
第二十候 みみず出ずる 044
第二十一候 たけのこ生ず 045

小満 046
第二十二候 蚕起きて桑を食う 047
第二十三候 紅花栄う 048

芒種 050
第二十四候 麦秋至る 049
第二十五候 カマキリ生ず 051
第二十六候 腐草螢となる 052
第二十七候 梅の実黄ばむ 053

夏至 054
第二十八候 夏枯草枯る 055
第二十九候 菖蒲花咲く 056
第三十候 半夏生ず 057

小暑 058
第三十一候 温風至る 059
第三十二候 蓮始めて開く 060
第三十三候 鷹技を習う 061

大暑 062
第三十四候 桐始めて花を結ぶ 063
第三十五候 土潤ってむし暑し 064
第三十六候 大雨時々降る 065

夏の花 名所全国ガイド 066

秋

秋を染める三色・赤・黄・橙 068

立秋 070
第三十七候 涼風至る 071
第三十八候 ヒグラシ鳴く 072
第三十九候 濃霧昇降す 073

処暑 074
第四十候 綿のはなしべ開く 075
第四十一候 天地始めて寒し 076
第四十二候 禾みのる 077

白露 078
第四十三候 草露白し 079
第四十四候 せきれい鳴く 080
第四十五候 つばめ去る 081

秋分 082
第四十六候 雷声を収む 083
第四十七候 蟄虫戸を閉す 084

寒露 086
第四十八候 水始めて涸る 085
第四十九候 雁来る 087
第五十候 菊花開く 088
第五十一候 キリギリス戸に在り 089

霜降 090
第五十二候 霜始めて降る 091
第五十三候 小雨時々降る 092
第五十四候 紅葉つた黄ばむ 093

秋の紅葉と花 名所全国ガイド 094

冬

冬に茅吹く、病を払う七草 096

立冬 098
第五十五候 椿開き始む 099
第五十六候 地始めて凍る 100
第五十七候 キンセン花香し 101

小雪 102
第五十八候 虹かくれて見えず 103
第五十九候 北風木の葉を払う 104
第六十候 橘始めて黄ばむ 105

大雪 106
第六十一候 空寒く冬となる 107
第六十二候 熊穴にこもる 108
第六十三候 鮭魚群がる 109

冬至 110
第六十四候 夏枯草生ず 111
第六十五候 鹿角おつる 112
第六十六候 雪下りて麦のびる 113

小寒 114
第六十七候 芹栄う 115
第六十八候 泉水温をふくむ 116
第六十九候 雉始めて鳴く 117

大寒 118
第七十候 フキノトウ花咲く 119
第七十一候 水沢あつく堅し 120
第七十二候 鶏とやにつく 121

冬の花 名所全国ガイド 122

日本の美しい「気象の言葉」 124

索引 128

本書の見方

明治時代の「略本暦」に記載された七十二候を表記。

二十四節気を３等分した七十二候。表記は「現代七十二候」を採用。同時に季節の旬も紅介。

二十四節気とその季節の「気配」と「行事」を紹介。日付は、2013年２月４日から2014年２月３日のものとした。

知っていると役に立つ、季節に関連した暮らしの知恵を紹介。

欄外には、本編に入りきらなかった季節の旬などを掲載。

その季節に楽しめる草花を紹介。花期と花ことばなども解説。